

血液浄化室において使用されるべき血糖測定器の比較検討

【演者】

医療法人社団 三思会 東邦病院 ME 科¹⁾ 腎臓透析センター²⁾

○筆頭演者 金子知史¹⁾、星野晴香¹⁾、久保田紗織¹⁾、若林悟¹⁾、大澤佑介¹⁾、宮本邦生¹⁾、坂田賢一¹⁾、村上寿子¹⁾、佐野浩之¹⁾、松本理恵¹⁾、小川浩司¹⁾、松村昌樹¹⁾、吉田弘明²⁾、小林さつき²⁾、松本孝之²⁾、坂本龍彦²⁾、植木嘉衛²⁾

【目的】

糖尿病性腎症が増加している昨今、血液浄化室における血糖管理もより精度が求められる。現在、SMBGを使用しているが、様々な物質の干渉による影響があり、POCT の使用が望まれている。今回、POCT 使用の機会を得たので比較検討した。

【対象】

糖尿病性腎症の患者 34 名(男性 25 名 女性 9 名)、平均年齢 60.7 歳を対象とした。

【方法】

穿刺時にシリンジにより採血し、自動分析装置、SMBG1 機種と POCT3 機種(A・B・C)により血糖を測定し比較した。

【結果】

自動分析器を基準として相関性を比較すると SMBG の相関係数は 0.945 であり、POCT は A0.984、B0.973、C0.975 であった。干渉が予想される Ht30%未満を比較すると、SMBG0.923、POCT は A0.979、B0.971、C0.959 と SMBG が低かった。

【考察】

今回の調査において Ht による影響が僅かではあるがあったことから対策が施されている POCT の使用が望ましいと考える。